

No.144

2004.

3.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

文化振興事業の取組み

岐阜県博物館協会常任理事

大垣市文化振興課長 森 通悦



現在の多様化する文化的欲求に対し、地域に根ざした文化を創造していくためには、文化活動の活性化を図りながら、主体となる市民とともに力を合わせ、文化創造への積極的で柔軟な対応を行って

いかなければなりません。

近年、生涯学習社会のまちづくりが進む中で、芸術文化に対する市民の要望も多岐にわたってきており、今までような鑑賞型の演奏会や展覧会だけではなく、参加型の芸術文化や歴史・文化についての郷土学習会、勉強会等が多く求められようになってきています。

文化の担い手は地域市民であるとの認識に立ち、音楽・美術・舞台鑑賞や各種発表等の機会を充実し、各種芸術文化団体が実施する自主的な企画・運営を積極的に支援しながら団体の育成を図るとともに、多方面にわたって広く参加できるようにしていく必要があります。

こうして市民参加型の芸術文化事業の推進や学習機会の場の提供をすることは、文化活動に参加したいという人の意欲を喚起するとともに、地域に根ざした芸術文化の創造、蓄積、さらには発信を図るものになります。

これまでも、財団法人大垣市文化事業団と連携しながら、生涯学習と文化施設の中心である学習館・文化会館において芸術祭、美術展、音楽会、各種文化講座を実施するとともに、大垣城郷土博物館・郷土館・金生山化石館・歴史民俗資料館など博物館施設においては各種企画展を行うなど、各種多様な芸術文化事業を開催しています。

各施設の運営以外にも、大垣市文化連盟に所属する各種の芸術文化団体が、自主的に活

発な活動ができるよう支援し、地域の文化向上に努めております。

また、俳聖松尾芭蕉ゆかりの地を、市民共有の財産として「奥の細道むすびの地」を長く後世に継承するとともに、全国俳句大会や少年少女俳句大会によって、俳句を活用した新たな文化活動の展開を願いながら、市民のふるさと再発見と観光地大垣を周知する「舟下り芭蕉祭」を青年団体・観光協会などと協力し開催し、毎年10月には芭蕉翁を顕彰する「蛤塚忌」を開催しています。

美術部門では郷土出身の画家で、平成13年に文化勲章を受章された守屋画伯の「守屋多々志美術館」を開設し、毎年多くの作品を紹介しながら市民の方々に鑑賞の機会を提供するとともに、広く全国に情報を発信しています。

さらに、生涯学習を積極的に推進する立場から、毎年テーマを決め専門分野の教授・郷土史家・学識経験者を講師に、郷土の歩んできた歴史をさまざまな角度から解説いただくなど、郷土大垣の歴史と理解を深める講座を開催し、子供達には学校生活を離れた環境の中で、郷土の文化財や文化施設の見学及び体験学習等を実施し、事業を通して先人の築いた文化と歴史を理解し、郷土愛や社会性、協調性を深めるものとして開催しています。

今後も一層、市民が気楽に参加できる各種事業を継続的に実施するとともに、生涯学習施設・文化芸術鑑賞施設の充実を図り、芸術文化の振興と向上を目指し、共有財産である文化遺産を後世に継承し全国に発信するなど新たな事業活動を展開する事によって、市民で創る「芸術文化の薫り高いまち大垣」に努めながら、市民一人ひとりが心の豊かさを追求でき、児童から高齢者までの各層・各年代を対象とした多種多様な各種事業の実施に取り組んでいきたいものです。

第51回全国博物館大会報告

「『博物館の望ましい姿』の実現に向けて」

期 日：平成15年11月6日(木)～7日(金)

会 場：大阪市 大阪府立青少年会館

本年度の全国博物館大会は第51回を迎え、大阪府立青少年会館において2日間にわたり開催されました。

第1日目は開会式、顕彰・棚橋賞の表彰式に引き続き議長団を選出し、午前中に行政報告が行われました。

行政報告では、博物館の現状や平成16年度の文化財保護関係の概算要求額の概要、様々な事業、文化財の輸出入等の規制などについて説明がありました。

午後には、全国博物館会議として、日本博物館協会の平成16年度事業について協議されました。

記念講演では、京都大学理学部教授の瀬戸口烈司先生から、「大学博物館の性格—京大を例として—」を演題として、京大総合博物館の設立の経緯について「京大らしさ」を軸にして話されました。

文化庁の河合隼雄長官からは、〈関西元気文化圏参加事業〉を例にとり「文化力で日本を元気にしよう」と、短時間で残念でしたが元気の出るお話でした。

シンポジウムにおいては、筑波大学教育学系助教授の飯田浩之先生から、本年6月に実施された「自己点検・評価アンケート」の結果と「博物館の望ましい姿」実現のための取り組みに関する課題について発表されました。アンケートの結果から自館の位置がわかるとともに、取り組むべき課題や抱える問題について改めて認識を深めることができました。

2日目は午前、パネルディスカッション「自己点検評価を実施して」が行われました。5つの館からワークショップを実施したその結果報告は、各館固有の歴史的経緯や設立の趣旨などが背景にあって、報告は大変興味深く参考になるものでした。

午後には大会決議が行われ、その後4つのコースに分かれて施設見学が行われ、有意義な2日間でした。

(岐阜県博物館 柴田滋司)

第28回東海三県博物館交流研修会報告

期 日：平成15年11月12日(水)～13日(木)

会 場：大垣市スイトピアセンター

参加者：55名

今年度は「元気の出る博物館活動」をテーマに、三県の事例発表、各館ブース見学、情報交換、大垣市周辺にある5館の施設見学等を行った。



第1日【11月12日(水)】

①研修・事例発表

- ・四日市市立博物館「四日市市立博物館プラネタリウムの試み」講師：南野尊俊氏

「大人がわくわくするような大人のための実験プラネタリウム」をテーマに、施設の活性化を図った実践例を発表。

- ・名古屋市美術館「わたしたち元気に見えますか？」講師：神谷浩氏

展覧会活動、普及活動、教育活動、ボランティア活動等の様々な場面をとらえて、美術館を活性化させるための方法を紹介。

- ・岐阜市歴史博物館「あなたが主演！ちよっと昔の道具たち展」講師：大塚清史氏

平成15年12月から始まる特別陳列「ちよっと昔の道具たち」の趣旨、特徴、内容を中心に説明。

②各館ブース見学と情報交換

各館の資料やパネル展示、アイデアに富んだ体験活動等が紹介され、充実した交流と意見交換の場となった。

③次期開催県挨拶

三重県立博物館長 谷本鋭次氏

④懇親会

第2日【11月13日(木)】

博物館施設見学：大垣市スイトピアセンター、大垣城郷土博物館、大垣市郷土館、守屋多々志美術館、奥の細道むすびの地記念館を見学

(機関誌委員 岐阜県博物館 若尾泰明)

岐阜県博物館協会第57回会員研修会報告

演 題：文化財保護の現状と今後
期 日：平成16年2月12日(木)
会 場：岐阜県博物館 研修室
講 師：鈴木孝夫氏(中部資材株式会社燻蒸部)
参加者：45名

文化財の燻蒸業務で実績のある中部資材(株)の鈴木氏を講師にむかえ、文化財保護の考え方を研修した。エキボンに替わる新しい燻蒸剤(アイオガード、アルプ、ヴァイケン、エキヒューム)やブンガノンなどのミスト剤の特性、文化財総合予防管理(IPM)の考え方についてわかりやすく解説していただいた。資料の燻蒸業務は業者任せになりがちであるが、今後は博物館側も知識を深め、適切な方法を選択しなければならないと感じた。



このあと、「リピーターを増やす」ための取り組みについて岩井敏光氏(博石館)、伊藤恭子氏(内藤記念くすり博物館)、牛丸岳彦氏(高山市郷土館)、石田克氏(岐阜県博物館)の4名から発表があった。



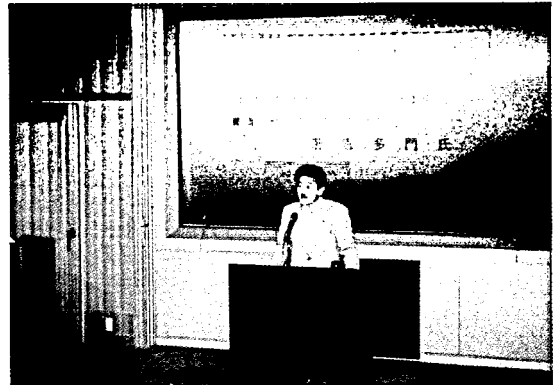
発表の後、マスコミへの対応方法、アンケート結果の取り扱い、来館者への対応など「リピーターを増やす」ための方策について会員同士の活発な意見交換がなされた。

(機関誌委員 岐阜県博物館 説田健一)

岐阜県博物館協会第99回公開講座報告

演 題：遺宝が語る白山美濃馬場の歴史
期 日：平成16年3月7日(日)
会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール
講 師：若宮多門氏(白山長瀧神社宮司)
参加者：156名

今回は、白山長瀧神社宮司の若宮多門氏を講師に「遺宝が語る白山美濃馬場の歴史」と題して講演をしていただいた。若宮氏は当協会理事長でもあり、郡上市白鳥町を中心とする文化財保護に尽力されている。



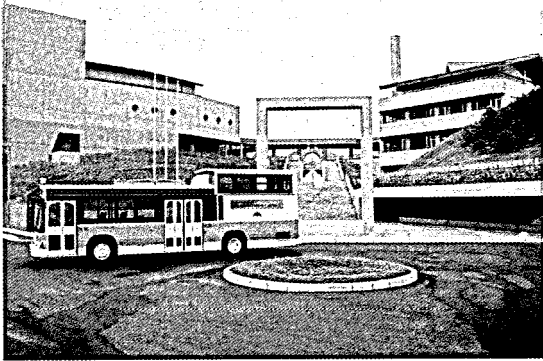
白山信仰は修験者を中心に全国に広まったが、白山神社が全国で一番多いのは岐阜県である。白山登拝の拠点は、加賀・越前・美濃の三馬場があり、なかでも、美濃馬場の長滝は、かつて各地から訪れる参拝者が「上り千人、下り千人」と言われるほどに栄えた。このことは奥美濃の正倉院と称される長滝神社の膨大な遺宝からも窺える。岐阜県博物館で開催中の「奥美濃の山岳信仰と文化の交流」展に展示されている「正和の壺」などの貴重な資料についても興味深いお話しをしていただき、超満員の聴衆は時間の経つのも忘れて最後までお話しに聞き入った。



(機関誌委員 岐阜県博物館 説田健一)

(財)岐阜県産業文化振興事業団
飛驒・世界生活文化センター

〒506-0032 高山市千島町900-1
TEL:0577-37-6111 FAX:0577-35-2251
URL <http://www.hida-center.or.jp>



●飛驒センターの概要

飛驒・世界生活文化センター（略称：飛驒センター）は、飛驒地域初の県営文化施設として、平成13年、高山市に開館しました。

博物館棟（ミュージアム温故知新）、アリーナ（飛驒コンベンションホール）、劇場（飛驒芸術堂）、レストラン・会議室棟（食遊館）の4施設を回廊で結び、それらの中央部分に屋外広場を設けた複合文化施設です。施設全体のエントランスとなる地下1階（ウェルカムプラザ）には、ミニシアター、国際ITサロンのほか、「飛驒のパノラマ画」「木の時計」などのモニュメントも展示しています。

●ミュージアム温故知新の概要

博物館棟には、展示施設（常設展示室、企画展示室）や収蔵施設（収蔵庫、特別収蔵庫）のほか、飛驒関連文献を集めた図書資料室、デジタルミュージアム工房を備えています。

●展示活動

常設展示室は「ひだの暮らし」「ひだのいのり」「ひだのたくみ」「ひだのデザイン」の4室で、日本列島のほぼ真ん中に位置し、山々に囲まれ特異な山村文化を発達させた飛驒地域の様子を紹介しています。「暮らし」は日常（いわゆる「ケ」）における生活の知恵を、「いのり」は年中行事（「ハレ」）や伝説を、「たくみ」は地域で活躍する職人たち、「デザイン」は飛驒が育んだ音・形・色を取り上

げています。それぞれの展示は、空間デザインはもちろん、手法を変え、飽きることなく見学できるように工夫しています。

これらの展示は、テーマが飛驒地域の既存施設と重複することを避け、あまり注目されることのなかった資料も広く発掘したユニークな内容を目指しました。ハンズオンやAV機器など、新しい試みも取り入れています。

このほかに、年数回の企画展では、飛驒内外の広範なテーマによるさまざまな展覧会を開催しています。中でも、平成15年度からは、岐阜県美術館の所蔵コレクションを公開する美術展を開催し、とくに地元の方々からご好評をいただいています。

●その他の活動 地域文化振興の拠点として

こうした飛驒の生活文化を展示するほか、地元の方々との文化による地域振興のための活動を行っています。その成果が「アトラス飛驒」と「ひだの散歩道」です。

ミニシアターで常時上映している「アトラス飛驒」は、市町村と当センターが協力して開館前年から制作している地域紹介映像です。現在、100を越えるコンテンツがそろい、来場者ばかりでなく、地元からも貴重な映像資料として地域文化の見直しに活用されています。また、市町村と共同で編集している、生活文化情報誌「ひだの散歩道」も評価が高く、現在までに4号を刊行しました。地元のみならずから観光客、さらには遠く故郷を離れた方など、飛驒を愛するの方々にお届けしています。

また、今年度からとくに取り組んでいるのが、教育普及活動です。以前から行っていた外部講師による体験教室に加え、毎週日曜日に当センター学芸員が講師を務める体験プログラムを始めました。教員用資料や児童生徒用パンフレット、常設展示図録などをつくり、学校誘致にも力を入れています。

【交通】JR高山駅から自動車で約15分（高山濃飛バスセンターから路線バスが運行）
東海北陸自動車道・清見インターから約40分

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】毎週火曜日、年末年始（12月28日～1月3日）